San-iku 通信

社会福祉法人賛育会の広報誌「さんいくつうしん」　　TAKE FREE

賛育会
春の風景
さんいく保育園有明
入園式
法人
新入職員研修

REPORT

Vol.45
2025 SPRING

特集：「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」

賛育会2025年度経営方針について

賛育会将来構想プロジェクト

社会福祉法人
賛育会

特集 REPORT

「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」

3/31に賛育会病院で「内密出産」と「ベビーバスケット」が始まり、すべての事業が開始となりました。

賛育会の原点は、キリスト教の『隣人愛』の実践として始めた、困窮する母子の保護・救済・救療のための妊婦乳児相談所です。innocentな、等しく尊い赤ちゃんのいのちは、決してトイレやコインロッカーや下水道等に遺棄されてはならないはずです。しかし、その背景には、生活困窮、育児不安、家庭内虐待、関係性の破綻等、賛育会として看過できない深刻な社会課題があります。賛育会がこのプロジェクトに取り組むことを決意したのは、歴史の必然かもしれません。

賛育会の「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」は3事業から成り、一つ目は「妊娠したかもSOS」（匿名相談）です。昨年7月に始めました。これは、予期せぬ妊娠に悩み苦しむ女性にとって、赤ちゃんの遺棄や虐待死に至るリスクを未然に防ぐための予防的介入（傾聴と情報提供・助言）になります。二つ目と三つ目は、この度の「内密出産」と「ベビーバスケット」です。「内密出産」は、「匿名の預け入れ」のもう一つの選択肢となり、子どもの出自を知る権利を担保することにつながります。

賛育会は、この三つの柱が重要であると考えます。孤立無援の緊急下の母の支援（いわば「最後の砦」）、胎児が無事に生まれる権利の保障（赤ちゃんの「いのちの最初の一歩」）、そして子どもの権利の尊重は、どれ一つ欠けてはならない大切なことです。

賛育会病院は、「内密出産」と「ベビーバスケット」の実施医療機関としては慈恵病院に続く2ヵ所目、東京初の病院となります。必要不可欠な行政機関や関係団体との連携と協働は、いのちに寄り添うコミュニティのセーフティネットとネットワークを形成します。本来は、本プロジェクトが不要な社会であるべきですが、しかし極めて厳しい現実があります。

最も弱い立場にある母子の保護と救済は、賛育会の過去・現在・未来をつなぐものです。本プロジェクトの試みが、いつか母子のみならず、すべてのいのちが大切にされる、ともに生きる社会へつながることを切に祈っています。

（赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト事務局長　大江 浩）

赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト　3事業

妊娠したかもSOS 賛育会

予期せぬ妊娠でお悩みを抱える方の匿名相談窓口です。

賛育会病院 内密出産

出産を秘密にしておきたい方への支援です。

賛育会病院 ベビーバスケット

匿名で赤ちゃんをお預かりする窓口です。

プロジェクトの現場から

妊娠したかもSOS 賛育会

「妊娠したかもSOS」は、昨年7月から始めた予期せぬ妊娠・出産・育児に関する匿名の電話相談です。週3日（月・水・金）の16:00～21:00、助産師や看護師等の相談員が対応しています。専用サイトのフォームから相談することもできます。「全国妊娠SOSネットワーク」（全国55カ所）相談窓口にも加入しているので、同ネットからのアクセスもあります。

相談内容は主に妊娠に関することで、パートナーの男性からの電話相談もありました。なかには無言で切れて相談に至らないケースもあります。私たち相談員は、どのような相談であっても、まずは勇気を出して電話をしてくれたことへ「ありがとう」の気持ちを伝え、相談の傾聴に努め、必要に応じて社会資源や情報提供をしています。SOSコールがなく、「待ち続ける」という日もあります。

「匿名」だからこそ、できる相談があります。これからも、相談者と一緒に悩み、一緒に考えることを大切に真摯に向き合っていきたいと思います。

（プロジェクト事務局「妊娠したかもSOS」担当　若林わか子）

妊娠したかもSOS 賛育会
詳しい情報はこちら
https://akachanproject.san-ikukai.or.jp/sos/

賛育会病院　内密出産

賛育会病院では、日頃から「特定妊婦」（出産後の養育について特に支援が必要と認められる妊婦）の相談や、分娩を受け入れています。その背景は、若年・家庭内虐待・経済的問題・妊婦健康診査未受診等、様々なケースがあります。加えて当院の年間分娩数の約1割は16ヵ国の外国籍の妊婦という状況もあります。

未受診妊産婦、孤立出産に至った女性は、妊娠に気づいても、信頼・相談できる関係性にある人がおらず、居所も不安定で無援のまま出産を迎えることがあります。今年3月末に始めた「内密出産」は、そのような従来の医療ソーシャルワークが必要な人を支えるための一つの試みです。

私たちソーシャルワーカーの役割は、まずは無事に出産、自宅分娩後の緊急入院で健康管理が開始できたことを肯定的に受け止め、本人を否定せず、肯定的な理解と受容に努め、妊娠や出産を労う支援を通して信頼関係を築くことです。そして継続的に自分と子どもの人生を考え、より良い生活に向けた選択ができることを、一緒に前向きに捉えていかれるようにしていきたいと思います。

（賛育会病院患者サポート部主任 母子支援室担当　飯島貴代）

賛育会病院
内密出産
詳しい情報はこちら
https://akachanproject.san-ikukai.or.jp/shb/

賛育会病院　ベビーバスケット

もう何十年も前のこと、未受診の飛び込み出産のケースに出会いました。助産師としては未熟で人生経験も浅かった私は、妊娠して10ヵ月もの間、何もしなかったその女性を無責任だと責める思いがありました。妊娠の経緯を尋ねても、女性は下を向き何も答えぬままでした。長い沈黙の後、女性は泣きながら「随分前、帰宅途中に見知らぬ男性に暴行された。誰にも何も相談できず、今日を迎えてしまった。どうすればいいかわからない」と答えました。私は少しでも相手を責めた自分を恥じました。

賛育会病院では年間700件以上のお産があります。700通りの背景や事情がありますが、どんな状況においても、私たちは「無事に生まれてほしい」「無事に育ってほしい」と願いながら、いのちに向き合ってきました。今年3月末、当院では「内密出産」と「ベビーバスケット」の受け入れを開始しましたが、私たちの姿勢は変わりません。一人で悩む女性の「最後の砦」として、また、新しいいのちが健やかに幸せに育っていくことができる社会の実現のために、今後も努力してまいります。

（賛育会病院看護部長　福田えりか）

賛育会病院
ベビーバスケット
詳しい情報はこちら
https://akachanproject.san-ikukai.or.jp/babybasket/

妊娠したかもSOS賛育会相談風景

ベビーバスケットの入り口

ご支援につきまして

本プロジェクトは、皆さまのご寄付と、当法人の支出により運営しています。皆さまの温かいご支援をお願いいたします。

詳しい情報はこちら

賛育会2025年度経営方針について

創立の原点に立ち帰り、地域支援に取り組む1年へ。

社会福祉法人 賛育会
理事長 平野 昭宏

2025年度の始まりにあたり、皆さまにご挨拶申し上げます。昨年度赤ちゃんのいのちを守るプロジェクトを開始しました。本年度は107年前の乳児妊婦相談所等の創立の原点に立ち返り、命を大切にする使命のもと、職員一丸となって地域支援に取り組んでまいります。

本年3月末より立花地区において新病院・新施設の建設が始まりました。2年半後には地域包括ケア病床と緩和ケア病床を備え、特別養護老人ホームが合築された病院として開設されます。訪問診療などの在宅医療も含めた地域包括ケアシステムの拠点となり、地域医療と高齢者福祉の合体した、より高度な医療・介護を目指します。たちばなホームとはなみずきホームが合流するこの新たな特養は老朽化した指定管理施設の建て替えでもあり、地域医療・福祉の核となります。

一方、太平地区は小児周産期医療と急性期医療を継続するために、賛育会病院の建て替え・再整備を進めていきます。第一期工事は、築92年の外来棟西館の取り壊しが進行中であり、本年秋ごろには完了する予定です。

当初は立花地区の新施設の開設した後に、第二期工事として入院棟含めて全体の建て替えを検討する計画でした。しかし院長より病院環境の現状に対する強い危機感が表明され、理事会においてもこの問題に一致団結して緊急対応する方針が確認されました。工事期間中の病院経営は厳しさを増すことが予想されますが、経営指標の見える化を推進し、診療科別の損益の予実管理を徹底することで、収支均衡のための適切な対策を講じてまいります。

介護・保育分野については、コロナ禍が一巡したことで経営の安定化が進んでいます。しかし老朽化も進んでおり、持続可能な福祉サービスの提供のためには2030年以降建て替えが急務です。今後とも一致・団結した運営へのご支援・ご協力をお願いします。

立花地区
新病院・新施設の建設

太平地区
外来棟西館取り壊し完了と、建て替え工事へ

SAN-IKUKAI HOSPITAL

賛育会将来構想プロジェクト

外来棟西館の解体工事は終盤を迎え、新病院・新施設の工事が始まります。

昨年の秋より行っていた外来棟西館の解体工事が終盤を迎えています。すでに西館の地上部分は解体され、現在は基礎を残す状況です。解体工事後も残る部分の耐震工事などが行われ、全てが終えるのは秋ごろの予定です。

一方、立花地区での新病院・新施設計画は1年越しで施工業者も決まり、2027年の秋の開設に向けていよいよ計画が実際に動き出しました。工事開始にあたり「起工式」を開催しました。式には来賓として墨田区長、地域の町会長もお招きし、関係者で工事の安全を願う、よき祈りの式となりました。

地域の皆さまを支える新たな賛育会の拠点となるよう良い施設づくりを目指していきます。引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

解体が進んだ外来棟西館

太平地区

立花地区

司式をつとめる酒井牧師

鍬入れの様子

新入職員研修を開催しました。

静岡県の自然に恵まれた国際青少年センターYMCA東山荘にて、入職式と2泊3日の新入職員研修を行いました。この研修は、新たに仲間となった職員が賛育会の理念や歴史、業務内容を理解するための貴重な機会であり、緊張や不安を和らげると同時に、同期や他の職種とのつながりを深める場でもありました。

入職式では、理事長から辞令が全員に手渡され、新たな一歩を踏み出しました。その後、新入職員研修が始まり、理念や歴史、就業規則、感染症対策、接遇マナーについての学びを深めました。107年の歴史を持つ賛育会が大切にしていることを知ることで、新入職員の仕事への意欲が一層高まったようです。研修2日目のネイチャープログラムでは、青空の下、グループに分かれて様々な課題に挑戦し、協力して問題を解決する過程を通じて同期の絆がさらに深まったようです。

研修後「相手に寄り添い、常に考えながら仕事を進めたい」という前向きな感想が聞かれ、これからの成長が楽しみです。

施設通信 祝周年

今年度賛育会の2施設が周年を迎えます。

さんいく保育園有明は10周年を迎えました。

10th Anniversary

（東京都江東区）

さんいく保育園有明は、4月1日に開園10周年を迎えることができました。これもひとえに、地域の皆さまやご家族の皆さま、関係者の皆さまの温かいご支援の賜物と、深く御礼申し上げます。

これまで109名の園児たちが神さまと関係者の皆さまの大きな愛に育まれながら、翼を大きく広げて小学校へと立派に羽ばたいてゆきました。私たちの理念である「隣人愛」を、園での生活の中で子どもたちにわかりやすく伝えています。「自分のことを大切にして、周りの人のことも大切にすることができる心を育てる」こと、「その子らしく成長できるよう、寄り添い支える保育」を大切にしています。

また、高い専門性を発揮して地域の皆さまの生活をサポートするために子育て支援、医療的ケアなどを実践してきました。今後も地域のニーズを敏感に把握して必要とされる保育サービスの実践を継続することで、地域の皆さまから愛され、子どもたちの成長をサポートする保育園として地域に根付き、発展するよう努めてまいります。

食材を見たり、触れたり、食育の時間

高齢者との交流のひととき

10周年記念公演
山の音楽舎
へんてこおはなし劇場
を開催しました！

マイホーム新川は30周年を迎えます。

30th Anniversary

（東京都中央区）

厨房職員による落語ボランティア活動

富岡八幡宮例大祭神輿担ぎでの、越二町会の方と職員

マイホーム新川は、地域の皆さま、ボランティアや関係機関の方々とともに歩み続けて、まもなく30年を迎えます。これまでのご支援とご協力に感謝いたします。

近隣には新しいマンションが幾つも建ち、若い世代の新しい住民が増えています。当施設は、2020年までの3年間、大規模改修工事が行われたので、明るい照明、綺麗な居室や食堂を見る限り、新しい施設のようです。しかし、当施設には20年以上も続いている古くからの活動も数多くあります。介護者教室・交流会、ドッグセラピー、デイサービス活動補助のボランティア、高齢者通いの場『ふらっとルーム新川』支援等々の活動です。一つひとつの活動、一人ひとりの関りを大切にしながら、地域との繋がり、地域の皆さまから信頼、信用されるような運営をしてきました。

『開設20周年記念誌』には、職員一同の想いとして、「ご利用いただく全ての皆さまが、生まれ育った地域で豊かな暮らしを続けられる『未来』のために、これからも一歩ずつ働きをすすめて参ります。」と書かれていました。私たちは、この歩み、この想いとともに、時代の変化に合わせた運営をこれからも続けていきます。

写真撮影での職員の笑顔！

昨年11月に開催した、中央区鮨商組合の方々による4年ぶりのお寿司の会

地域の高齢者向け体操教室「ふらっとルーム新川」

地域の方へ開催の介護者教室

メッセージ

日本キリスト教団 亀戸教会は、さんいく保育園 清澄白河・有明の両園を通して賛育会を支えてくださっています。同教会の堀川 樹牧師にメッセージをいただきました。

イエスは知恵が増し、背丈も伸び、神と人とに愛された。
ルカによる福音書　2章52節

わからなくても愛されている事実

日本キリスト教団 亀戸教会　牧師　堀川 樹

イエス・キリストの幼少期の話を記しているのはルカによる福音書だけです。12歳の時にエルサレムの神殿に両親と共に礼拝に行って、そこに留まり聖書の専門家と問答をしていました。そんなことを知らない両親ヨセフとマリアは息子イエスがついてきていると思います。来た道を両親は引き返して三日後ようやくエルサレムの神殿でイエスを見つけます。当然、マリアは「心配しましたよ。どこにいたんですか」と言いました。すると、当の本人は「知らなかったのですか。私が神さまの家（神殿）にいることを」と答えたのです。叱りたくもなる状況ですが、マリアはその出来事をすべて心に納めたというエピソードのみです。その結びの言葉が冒頭の御言葉（みことば）です。

生きている限り、私たちもわからないこと、理解できないことがあります。しかし、マリアはのちにわかるだろう、わかるかもしれないと心に納めました。聖書によれば、この世界も私たち人間もすべてのものは天の父なる神さまに造られたものなのですから。そうです。すべての人は神さまに愛によって、愛される対象として造られた存在です。

受け止めておくことはただ一つ。何かできてもできなくても、何がわかってもわからなくても、イエスさまと同じように神さまに愛されているということ。それだけです。

SAN-IKUKAI
INFORMATION

賛育会フォトコンテスト2024「いき活きの瞬間の記録」受賞作品紹介！

2024年11月1日から2025年1月7日まで、「いき活きの瞬間の記録」をテーマにしたフォトコンテストを開催しました。たくさんの「いき活きの瞬間」がカメラに収められていました。57作品のエントリーの中から、各施設での職員投票によって以下の3作品が選ばれました。

私だってまだまだ若い
さんいくハイツ東あずま
山下 剛一郎さん

107歳のパワー！
「元気な赤ちゃんを産んでね」
ゆたかの
齋藤 恵さん

一球入魂！
マイホーム新川
西谷 佑季さん

主要人事

〈施設長等異動〉
2025年3月31日付

遠矢 充宏　賛育会病院事業所 地域事業所長 兼 法人事務局 賛育会病院担当部長 兼 新病院・新施設開設準備室室長 兼 賛育会病院 経営改革室長
賛育会病院事業所 地域事業所長、法人事務局 賛育会病院担当部長、賛育会病院 経営改革室長を解く

杉浦 広隆　法人事務局 人事部長 兼 総務部長
法人事務局 総務部長を解く

〈施設長等登用〉
2025年4月1日付

近藤 倫弘　賛育会病院 事務部長 兼 患者サポート部長 兼 賛育会訪問看護ステーション事務長 賛育会病院事業所 地域事業所長兼務とする

遠矢 充宏　法人事務局 総務部長 兼 新病院・新施設開設準備室室長とする

皆さまのお支えに感謝いたします

2025年1月1日～4月30日までに下記の団体・個人の方々よりご寄付をいただきました。深く感謝申し上げます。
複数回ご寄付いただいた方も表記は一度とさせていただきました（敬称略　順不同）。

一般社団法人ビーンズ
学校法人日本聾話学校
株式会社マイキャリア・ラボ
賛育会病院 職員有志
青山学院初等部
第二清風園 職員有志
東洋英和女学院 中高部 宗教委員会
日本キリスト教会 横浜海岸教会
日本基督教団 曳舟教会
日本基督教団 下谷教会
日本基督教団 亀戸教会
日本基督教団 玉川教会
日本基督教団 四谷新生教会
日本基督教団 南遠教会
牧之原（相良）区
大成温調株式会社
尚絅学院大学 宗教部
青木 直典
赤荻 佐和
秋田 正人
朝比奈 真美
雨宮 武士
新井 悟
安藤 美智子
五十嵐 康則
石川 かよ
石川 周子
石田 悟
石塚 裕太郎
岩井 功
岩見 宣治
牛島 和夫
薄井 佳代
大江 浩
小川 圭一
大関 俊弘
大塚 衣織
大塚 由紀子
大橋 祐治
形岡 暁生
加藤 輝勢子
金室 美津枝
川上 るり子
川名 とし子
倉持 登志子
小池 ひろみ
小山 榮次郎
小山 和子
古山 武史
齋藤 たけ
齊藤 敏之
齊藤 實
澤戸 晃
残間 真琴
色摩 信司
篠原 栄子
柴田 和子
柴田 光昭
柴田 禮三
島崎 輝子
島根 慶一
清水 利郎
清水 久也
鈴木 みづえ
瀬山 俊一
武田 すぎ子
武知 鱗次郎
谷口 博大
千葉 敦子
塚本 洋子
月本 昭男
土屋 利佳子
戸部 卓治
長島 章
鳴島 央也
西田 大介
西原 文隆
野尻 幸起子
迫間 兼雄
橋本 徹
服部 秀文
林 恵
原澤 ますみ
平山 太陽
福澤 尚実
藤野 勝美
藤元 健太
古田 武則
松岡 裕子
真部 光子
宮井 昭信
宮原 和大
武藤 かず子
村上 俊一
茂木 慧
本木 里実
森重 勝
森下 あつ子
八木 はるみ
矢沢 栄子
柳沼 恵一
山崎 暁子
山下 誠
湯川 寿々子
横田 和彦
和久井 義春

匿名希望　61名

賛育会へのご支援のお願い

今回新たな取り組みとして「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト」を立ち上げましたが、賛育会では従来から子ども食堂、オレンジカフェなど子どもからお年寄りまで、地域のすべての人に寄り添い、サポートする様々な活動を展開しています。

今後の地域支援活動継続のため、どうか私たちの活動にご賛同いただき、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト
サポーター制度を開始しました

詳しくはこちらをご覧ください

賛育会ホームページ
「賛育会へのご支援のお願い」
（https://www.san-ikukai.or.jp/participate/）

San-iku通信　社会福祉法人賛育会の広報誌「さんいくつうしん」
San-iku通信 Vol.45　2025年 春号
編集：賛育会法人事務局　発行人：中村 基信　発行所：社会福祉法人 賛育会
賛育会後援会だより さんいく
賛育会後援会だより 2025年5月号・第112号
編集・発行人：小堀 洋志
印刷：（有）エースプリント　（20256450-0508）

社会福祉法人 賛育会
〒130-0012 東京都墨田区太平3-17-8
URL https://www.san-ikukai.or.jp/
お問い合わせ
TEL：03-3622-7614

社会福祉法人 賛育会